

昭和62年度事業を振り返って

館長 久住 彰夫

昭和62年度の終わりにあたり、当館の主要事業を振り返り、若干の感想を付言します。

本館は、岡山県の歴史と文化を理解していただくため、原始・古代から近世に至る文化遺産を収集・保存し、広く県民に展覧することを目的に毎年、大別して、(1)前期・後期展、(2)特別展、(3)テーマ展、(4)巡回展、(5)博物館講座、(6)研究報告書の刊行の6つを主要事業として実施しています。

まず、本年度最大のイベントである特別展は、『教育の原点をもとめて』をタイトルとして10月24日から11月23日までの1カ月開催しました。これまでの特別展がどちらかといえば視覚に直接訴える資料を中心とした展示であったのに対し、今回はやや趣を異にし、人間の内面的問題がからむだけに資料選択や理論構成が難しいと予想されていた教育の世界を、技術や文化の継承を中心として取り上げ、企画実施しました。この展覧会では原始・古代から中世・近世にいたる様々な教育的営為に目を向け、単に知識・道徳の教育制度のみでなく、「共同体における教育」「家の教育」「近世教育の諸相」などといった視点で、全国から借用した重要文化財20点を含む200余点の貴重な歴史資料によって教育問題の様々な要素や側面を展覧いたしましたものです。幸い多数の鑑賞者と専門家の賞賛を戴き、成功裏に終わったと自負しているところであります。

テーマ展では『百間川遺跡』展と『刀剣と鐔』展を開催しました。前者は7月22日から9月6日までであり、昭和51年着手以来10年を経過した百間川遺跡発掘調査により発見された豊富な資料の中から、縄文・弥生・古墳時代の生活と文化の足取りを中心に116点の公開展示を行いました。後者は8月18日から10月18日までの間、貴重な寄贈資料の中から黒住龍四郎氏(刀剣9口)、日笠賢氏(刀剣2口)、山上丑之助氏(鐔139点)のコレクションを中心に公開展示しました。

博物館講座は、5月22日から6月19日までの毎週金曜日、5回にわたり開催しました。文化遺産を正しく理解し、継承するため、できるだけ実物資料に触れながら郷土の歴史と文化を学習するもので、本年度で11回目、「岡山県の歴史と文化」をテーマに、講師は外部から3人と本館学芸員

の6人で、受講者69名となりました。

研究報告書の刊行については、学芸員の研究紀要として概ね毎年1冊を刊行しておりますが、本年度も第9号を発刊いたしました。

また関連事業として、岡山市後楽園周辺地域に所在する文化施設(後楽園・県立博物館・夢二美術館・岡山城・林原美術館)が相互連携を図り、各施設の充実と地域の発展を目的に昭和60年10月に発足した「岡山カルチャーゾーン連絡協議会」もいよいよ軌道にのり、本年度はJR岡山駅構内へ案内板の設置、リーフレットの刷新などにより県内外へのPRに積極的に取り組みを行いました。

以上、主要事業の概要であります。一人でも多くの県民が先人の遺した伝統文化に触れ、関心を持ち、自然を愛し、郷土を愛する人が多く育ち、新しい文化の創造の糧となれば博物館の存在意義は大きいと考えており、本館の設置の趣旨や役割を十分踏まえ、関係各位の御理解・御支援をいただきながら、館員一同いっそうの努力をしまいたいと考えています。



昭和62年度特別展ポスター

特別展

教育の原点をもとめて

—文化の継承と発展—

10. 24～11. 23

「教育」といえば、とくに近代以降の学校教育が問題とされ、現代に至っては、その知識偏重の結果がとりざたされている。しかし、人類の歴史のなかで、教育の問題ほど古くて新しい問題はない。教育ということの根幹に、文化の形成と継承問題がおかれている以上、およそ人類の歴史が始まった時から、この問題は人類全体のものとして、極めて重要な問題であったと考えられる。

歴史博物館として設立され、原始・古代から近世に至る資料を収集・展示する本館として、今年度の特別展のテーマはこの「教育問題」に迫ってみようとした。わが郷土の歴史における教育関係資料として、まず、閑谷学校・岡山藩学校などの存在が頭に浮かぶが、施設教育はともかくとして、先述のような観点で教育を文化の継承問題として広くとらえ、その本質たる生活技術の伝承という点から展示構成を始めることとした。そこで、今回は、(1)原始・古代・中世、(2)共同体における教育、(3)職人教育、(4)家の教育、(5)近世教育の諸相といった構成で、多種多様な歴史資料によって、教育問題の様々な要素や側面に触れてみようとした。

まず、(1)のコーナーでは、石器の製作方法のほか、弥生時代終末から古墳時代初期にかけて非常に発達していた吉備型のかめの製作が長年にわたり踏襲された様子を展示することによって、生活技術の伝承問題に注目し、その根幹の上に、文字の使用というような二次的な文化が成り立っているさまを、墨書土器や習書木簡などの考古資料によって展開した。これらの資料からは、律令制下の下級官吏が文字の練習をおこなった姿がしのばれた。そして、律令制が崩壊したのちの中世における教育を物語るものとして、金沢文庫と足利学校を紹介した。とくに、金沢文庫から室町期以降に持ち出された源氏物語（重文・名古屋市蓬左文庫蔵）と、それ以前の鎌倉期においてその貸借を記したとされる金沢貞顕書状（神奈川県立金沢文庫蔵）の両者を、今回はじめて、一堂に展示できたことは注目値した。

(2)のコーナーでは、かつての村落共同体のありかたについて考えてみた。共同作業を通じて自然と身につけられる教育内容のほか、子供組・若者組といった組織化された教育の場にみられる自治規制などをとりあげ、町ぐるみ・村

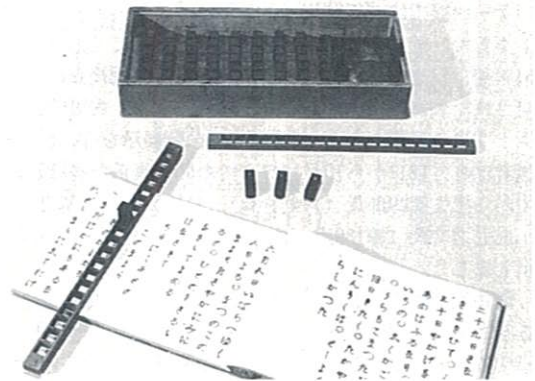
ぐるみの教育について再考していただきたいとの意図からの展示でもあった。

(3)職人教育の項では、絵画にみる職人修業の姿として、石山寺縁起、菅田宗庵縁起、職人尽絵屏風といった重要文化財を一堂に会し、中世期の寺社の建築現場で見習いの子供が働く様子から近世初頭の店棚での徒弟の姿までを豊富な絵画によって展覧した。このことがらに関し、特別展記念講演会では、東京大学史料編纂所助教授の黒田日出男先生に「絵巻物にみる中世の教育」というテーマでご講演いただき、ビジュアルな歴史資料としての絵巻物について興味深い指摘をいただいた。

(4)家の教育では、武家・農家・商家といったそれぞれの家の存続のために記された家訓類を展示した。また、円山応挙筆「子孫へ序」や田能村竹田の訓書など文人の訓戒には、それぞれの味わいの深さが認められた。

最後の、(5)近世教育の諸相のコーナーでは、「教育」というと最初に思いつく、藩校・寺子屋・私塾・画塾といった様々な教育施設に関する資料の展示をおこない、現在高度に発達し細分化された教育機関の出発点について考えてみた。とくに、商品経済の浸透と庶民教育の必要性から寺子屋が自然発生的に開設されたことや、私塾などにみられる、教育を授ける者と受ける者の「誓紙」による師弟関係など、現代教育において忘れ去られた一面を浮かびあがらせることとなった。また、今回特筆すべきものに、幕末から明治にかけて備後地方で琴・三味線の普及に尽力した盲人・葛原勾当に関する資料があげられる。自ら考案した木製活字を使用して、その日の行動および心情を詠んだ和歌をのした彼の日記には、見る者の胸に迫る情念といったものが溢れており、会場では驚嘆の溜め息が聞かれた。

以上のような構成によって、教育問題を単に知識教育に矮小化することのないよう、その様々な側面から触れてみた。この特別展を契機として、教育問題を再認識していただき、全国各地から貴重な教育資料がおもてに出てくることとなれば、まことに光栄である。



葛原勾当日記と印字用具

主な出品物

- ◎国 宝
- ◎重要文化財
- ◎県指定重要文化財

(1) 原始・古代における生活技術資料ならびに文化資料

- ・石器の製作技術
瀬戸内技法の石器
玉野市宮田山出土 岡山県立博物館
- ・墨書土器ならびに刻銘土器
- ◎和銅元年銘銅壺 矢掛町・因勝寺
- 墨書土器 奈良国立文化財研究所
- 馬評銘須恵器 岡山県立博物館
- 大伏銘須恵器 伝邑久郡出土 //
- ・出土遺物にみる文房具など(中世を含む)
- 習書木簡 平城宮出土 奈良国立文化財研究所
- 硯 草戸千軒町遺跡調査研究所
- 陶器水滴(瀬戸焼) //
- 木製品(弓を引く武士の絵)(レプリカ) //

(2) 中世における教育施設関係資料

- ・金沢文庫関係
- ◎源氏物語〔金沢文庫本〕 名古屋市蓬左文庫
- ◎続日本記〔 〃 〕 //
- ◎斉民要術〔 〃 〕 //
- ◎侍中群要〔 〃 〕 //
- ◎太平聖恵方〔 〃 〕 //
- 金沢貞顕書状・長井貞秀書状 神奈川県立金沢文庫
- ・足利学校関係
- ◎宋刊本文選〔金沢文庫本〕(複製) 足利学校遺蹟図書館
- ◎宋版礼記正義 (複製) //
- 足利学校門額 (レプリカ) 栃木県立博物館

(3) 村落共同体における教育関係資料

- ◎堂頭日記(おとう板書) 神戸市北区淡河町南僧尾区 個人
- 農業図絵 個人
- 絵馬(四季農耕図) 兵庫県・香寺民俗資料館
- 知多郡乙川村向山若者條目写 愛知県半田市向山
- 知多郡古布若者御條目掟書之事 愛知県美浜町教育委員会保管
- 乙川八幡社祭礼絵図 愛知県半田市・乙川八幡社
- ◎笠岡港力石 笠岡市教育委員会

(4) 職人教育資料

- ・絵画にみる職人修業の姿
- ◎石山寺縁起 大津・石山寺
- ◎誉田宗席縁起 羽曳野・誉田八幡宮
- 三十二番職人歌合 個人
- ◎職人尽絵屏風 川越・喜多院
- ◎名古屋城旧本丸御殿障壁画 対面所上段之間付書院
- 障子腰貼付風俗図 名古屋城管理事務所
- 士農工商風俗図屏風 サントリー美術館
- ・各種の秘伝書ならびに差図
- 木工柏木家秘伝書 神戸・竹中大工道具館
- 刀鍛冶秘伝書 刀剣博物館

(5) 家庭教育資料

- ・武家家訓
早雲寺殿二十一ヶ条 内閣文庫
多胡辰敬 家訓 //
- ・商家家訓
住友家関係 「文殊院旨意書」ほか 京都・住友史料館
三井家関係 「宗竺遺書」パネルならび商売道具 東京・三井文庫

・文人家訓

- 教訓図(子孫へ序) 円山応挙筆 個人
- 訓書(詩論・画説) 田能村竹田筆 //

・農家家訓

- 備中平川家「年中家行録」 岡山大学附属図書館
- 美作徳山家「家内制詞条々」 //

・農書類

- 徳山敬猛「農業子孫養育草」岡山大学附属図書館
- 川合忠蔵「穂に穂」 岡山大学大原農書文庫

(6) 近世における教育施設関係資料

- ・藩校関係資料
- 備陽国学記録 岡山大学附属図書館池田家文庫
- 国学旧記 //
- 岡山藩学校の図 //
- 新選自註桑華蒙求(木版木) 岡山市足守文庫
- 閑谷学校 定(板書) 岡山大学附属図書館池田家文庫

- 備前閑谷学校圖 岡山県総合文化センター
- 郡々手習書并小子之事 岡山大学附属図書館池田家文庫

・寺子屋関係資料

- 寺子屋机(師匠用) 個人
- 寺子屋教科書 //

◎「一掃百態」 渡辺山筆

愛知県田原町教育委員会

・私塾関係資料

- ◎本居宣長関係資料 松阪・本居宣長記念館

(経籍
万葉集問目
鈴屋講筈回章ほか)

- 業合大枝関係資料 邑久町・豊原北島神社
- 菅茶山(廉塾)関係資料 個人

- 興譲館関係資料 井原・興譲館高等学校

◎葛原勾当関係資料

- (葛原勾当日記) 個人
- (印字用具)

・画塾教育資料

- 沖一峨関係資料 個人
- 公用日記 狩野晴川院著 東京国立博物館

- 狩野流誓紙・印可状・絵具箱 福岡県立美術館
- 探幽縮図(和漢山水人物図巻) 個人

- 安信縮図(和漢古画図巻) //

・絵馬・算額

- 絵馬 裁縫仕立師弟図 高梁・八幡神社
- 絵馬 裁縫・三絃手習図 高梁・松連寺

- 算額 (小野以正一門奉納) 岡山・吉備津神社
- 算額 (小野以正一門奉納) 総社・総社宮

- 小野光右衛門肖像画 個人

- 小野光右衛門 測量・製図用具ほか

金光町・金光図書館

テーマ展

百間川遺跡

7. 22～9. 6

百間川遺跡は、旭川の東に設けられた非常放水路である百間川の河川敷に広がる遺跡群である。河川改修工事にともない、すでに十年以上も岡山県教育委員会による発掘調査が実施され豊富な資料が発見されている。この調査によ



人形土製品

って解明された多くの問題は、吉備地方の歴史を理解する基礎的な資料であるばかりでなく、日本の歴史を書き換えるような大きな意味をもつものといえよう。この調査は何よりも吉備地方の中心部にある遺跡の密集地を、広大な面積にわたって発掘調査しているもので、これまでの部分的な発掘調査では確認できなかった原始古代の生活の実像を浮かび上がらせるものとなっている。

この展覧会は、発掘調査の開始以来すでに十年を経過した百間川遺跡の調査によって得られた成果の中から、縄文・弥生・古墳時代の生活と文化のあしどりを中心にまとめたものである。

主な出品物

(資料名)	(時代)	(出土遺跡)
縄文土器	縄文晩期	百間川沢田遺跡
石鏃	〃	〃
水差し形土器	弥生中期	百間川今谷遺跡
台形土製品	〃	百間川兼基遺跡
石剣	〃	百間川原尾島遺跡
壺棺一式	弥生後期	〃
器台(丹塗鼓形器台)	〃	〃
小型偽製内行花文鏡	〃	〃
銅鐸形土製品	〃	〃
鉄鏃 2	〃	〃
人形土製品	〃	百間川兼基遺跡
手焙形土器	古墳前期	百間川沢田遺跡
船形異形土器	〃	〃
壺形土器(かご目)	〃	〃

テーマ展

刀剣と鐺

8. 18～10. 18

このテーマ展は、これまでに、日笠賢氏、黒住龍四郎氏、山上丑之助氏よりご寄贈いただいた刀剣と鐺関係のコレクションの全容を初めて公開したものである。

本年度になって、京都で活躍した剣道師範九段・故黒住龍四郎氏(岡山市一宮出身)の遺族の方からそのコレクションのうち9口の刀剣が本館に寄贈された。また昭和55年に、永禄10年清光作の末備前の名刀を寄贈していただいた東京在住の日笠賢氏(和気町出身)から、引き続き本年度、その刀剣と対になっている同人同日打の清光を寄贈いただき、2口(両者)を合わせて展示した。

鉄透鐺を中心に収集した山上丑之助コレクション139点(昭和56年寄贈)のうち主なものを初めて公開した。鐺は攻具に付属した防具として機能的にも重要なものといえる。またその意匠には時代の反映や武士の美意識を随所にうかがうことができる。鐺の中でも、特に鉄鐺は武士の本質にそった質素で力強い表現のものが多い。



山上コレクションより

主な出品物

(資料名)	(時代)	(コレクション名)
槍 村正	室町末期	黒住コレクション
脇差 正光	室町初期	〃
刀 正真	室町末期	〃
刀 清光 2口		日笠コレクション
銘備前国住長船孫右衛門尉清光 為日笠次郎兵衛尉頼房作 永禄十年八月吉日 (1567年)		
脇差 祐定		黒住コレクション
銘備前国住長船藤三郎祐定 为重代宇喜多左京作之 天正三年八月吉日 (1575年)		
武蔵野透鐺	赤坂忠時 江戸時代	山上コレクション
銀杏葉透鐺	武州国広	〃
網魚透鐺	南蛮	〃

博物館講座

毎年恒例となった『博物館講座』を、今年度は下記の内容で実施した。本講座は「岡山県の歴史と文化」をテーマに、外部の専門家や本館学芸員を講師とし、館蔵の実物資料を活用しながら郷土の文化遺産を理解しようとする特色ある講座である。本年度は、外部講師の方々に、古代の寺院における瓦の特徴と系譜、中国山地でさかんであったたたら製鉄のようす、近世の街道と旅の実態について御講義いただき、バラエティに富んだ内容となった。

昭和61年度から開催時期を繰り上げ梅雨期をはずしたため、受講者の出席率も高くなってはいるが、応募時期がゴールデン・ウィークと重なるためか、かつては2倍もの応募を受けた本講座もここ2年はほぼ定員なみの応募に落ち着いている。受講生の固定化を避け、より多くの方々に博物館を効果的に利用していただくためにも、県民の意識の中に定着するような広報活動を行うことが課題であろう。

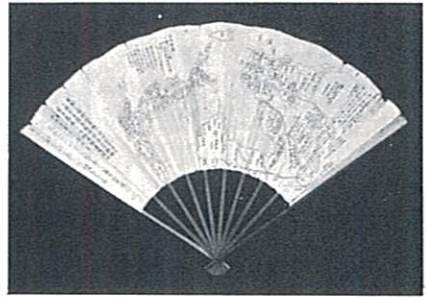
昭和62年度 博物館講座より



テーマ	講師	開講日
博物館の仕事	学芸課長 高橋 護	5.22(金)
日本の古窯	学芸員 臼井 洋輔	〃
旧石器時代の岡山	学芸課長 高橋 護	5.29(金)
古代の瓦	岡山理科大学講 師 亀田 修一	〃
中国山地の産業史	主 任 田村 啓介	6. 5(金)
岡山のたたら製鉄	県立林野高等学校教諭 宗森 英之	〃
木工と職人	主 事 八田 眞	6.12(金)
岡山の街道と庶民の旅	県史編纂室主査 在間 宣久	〃
画家の修業	学芸員 守安 収	6.19(金)
岡山の紙	学芸員 竹林 栄一	〃

昭和62年度購入資料

- 絹本着色 文殊観音二大士図 2幅 江戸時代
池田綱政筆
- 片岡家 書簡集 3巻 江戸時代後期
- 古川古松軒筆 地図扇面 1面 寛政5年(1793)



- 備前焼 大海茶入 1点 桃山時代
- 備前焼 八寸皿 1点 桃山時代
- 彩色備前 「東下り」「文殊観音」 2点 江戸時代後期
- 正阿弥勝義金工品 小型花瓶 2点对 明治30年代



この作品は、実用から離れた、非常に小型の花瓶である。1個の小花瓶に2面の色絵象眼が施され、全部で4面の画面が展開されている。極めて小さい花瓶に可能な限り小さい四季の花鳥が数多く、変わり金を用いた色絵としてぎっしり施されている。

昭和62年度寄贈資料

- 刀 銘 備前国住長船孫右衛門尉清光
為日笠次郎兵衛尉頼房作
永禄十年八月吉日 1口 東京都 日笠 賢
- 脇差 銘 備前国住長船藤三郎祐定
為重代宇喜多左京作之
天正三年八月吉日 刀 清光
- ・刀 銘 近江大掾藤原兼定
延宝九年二月吉日 (拵)
- ・刀 銘 但州国光二十三代近江守
法城寺橋正弘
元禄十四年九月吉日
- ・刀 銘 加州住藤原清光
萬延元年八月吉日
- ・刀 摺上無銘 表20文字 裏9文字 (利秋帯)
- ・脇差 銘 正光
- ・短刀 銘 於楠公神前作之
明治十八年六月吉日
月山貞一
- ・槍 銘 村正
- ・火縄式銃砲 銘文 国口
計9口 京都府 黒住言行・卜部禮子
- 桶・樽作り道具一式 55点 邑久町 今吉 君子
- 桶作り道具 (正直・仮輪) 7点 倉敷市 藤原 秀夫
- 柄鏡 (銘 藤原光政) 1点 福岡県 飯野須磨子
- 備前焼 甕 1点 岡山市 松島 誠
(敬称略)



以上、貴重な資料の寄贈を受けました。長く大切に保管するとともに本館の展示・研究資料として有効に活用させていただきます。ここにご寄贈くださいました方々のご芳名を記し、厚くお礼申し上げます。



備前焼 甕

昭和63年度事業のお知らせ

○特別展 「瀬戸内に生きる」(仮称)

10. 22～11. 20

多島海の美しい景観を織りなす瀬戸内海は、古来海上交通の要路として重要な役割を担うとともに、文化の交流・伝播の大動脈としても機能した。すでに、文安2年(1445)の「兵庫北関入船納帳」にみえる諸物資の動きは、瀬戸内地域の活発な生産活動を彷彿とさせるものである。さらに、古くから発達した内海漁業や製塩業に加え、近世期における沿岸地域の大規模な干拓事業は、綿・蘭草・藍などの商品作物の栽培を促進し、種々の在来産業の発達をもたらした。これらは、瀬戸内地域の近代産業の素地を形成するものであったが、時代の趨勢の中で、現在その姿を大きく変えていった。この展覧会は、瀬戸大橋の完成による新時代への幕開けを契機として、瀬戸内地域の歴史とそこに生きてきた人間の営みの足跡をたどろうとする。

○テーマ展 「木工と技術」

7月上旬～9月下旬

この展覧会では、伝統産業となりつつある桶製作の工程をはじめ、県内における木工技術をとりあげ、技術の詳細と特徴を明らかにすることによって民俗資料としての伝統産業の一面を紹介する。

○テーマ展 「刀装具」

9月上旬～10. 16

江戸時代の金工品の中でも、武士の持ち物である刀剣の装具は地味なわびたものと、その対極として、とりわけ贅をこらしたものがある。限定された面積の中に、可能な限りの技と伝統が込められている。この展覧会では、江戸時代の金工品のなかでも大名クラスの刀装具に重点をおいて展観する。

○博物館講座 「岡山県の歴史と文化」

5. 27～6. 24
各金曜日の5日間

岡山県立博物館だより No.30

発行日 昭和63年3月31日
 発行 岡山県立博物館
 館長 久住彰夫
 岡山市後楽園1-5
 ☎(岡山) 72-1149